

9 時間レースのスコアオリエンテーリング形式。日本では前人未踏の境地だ。そんなロゲイン大会が菅平高原で開催された。

ジャパンロゲインチャレンジ 2004  
菅平高原大会  
2004年6月27日(日)  
長野県菅平高原シュナイダーゲレンデ



9 時間の部総合優勝「チーム大安」  
安斉(左)柳下(右)の最強ペア

## 柳下・安斉 9 時間を制す

日本ロゲイン史上初の 9 時間コース。男子チームを制したのは「チーム大安」。過去 2 回にわたって菅平高原で行われたロゲイン大会の最上位クラスですべて優勝している柳下が今回も優勝を勝ち取った。

今回から最長コースはグループ出場が義務付けられている。柳下の相棒は三河 OLC の安斉。安斉はかつて菅平高原に通い、根子岳をトレーニングフィールドにしていた経歴もあり、今までのロゲイン大会でも上位の成績を収めている。

今回のレースでも、単純に最適ルートを選択するだけでなく、到着時間の読みや、到達するコントロールの得点に関してかなり緻密な計算を行っていたという。

Q. 分単位で到着時間が分かるって本当？

A. かなり正確だったと思います。最初に行われた 6 時間のコースでは、57 番ポイントまでざっと 3 時間と予想しており、まさにその通りで、冴えていました。

Q. 得点に関して緻密な計算をしていたのは具体的にどんな計算？

A. たとえば 45 番から 55 番に向かう間に、71 番の取捨に関してこんな会話をしていました。

「6 時間できつと 1500 点ぐらいだろうから、1 時間 250 点、12 分で 50 点。これより効率が悪い場合はとらないほうがいい。だから 71 は行かない。」

51 番は往復で 11 分だったので、ギリギリセーフ。65 番は往復するとおそらく 17 分ぐらいで、ギリギリアウト。33 番、39 番もアウト。そして取った得点も 1500 点ちょっとで、まったく予想通りでした。



牧場近くを走っている時、コース上に牛が居ました。移動して欲しいので「モウー」と声を出したら寄ってきてしまった。うわー！避けてくれい！と思って「モモモモウ！」と声を出したらもっと寄ってきてしまった。

通常の参加者なら、チームの体力と相談して回ってこれそうないつかのルートを見つけ、その中でも点数の高そうなルートに走る。あとは残り時間と疲労度を見ながら都度ルート修正をするのが普通だ。

しかし彼らのプランはこれらとは一線を画している。走りながらこんなことを考えていたなんて驚きだ。

9 時間男子 2 位は田中正人率いる「EAST WIND」。田中正人は日本を代表するアドベンチャーレーサーとして有名。オリエンティアでもある。

「ロゲインはオリエンテーリングというよりアドベンチャーレースに近い要素があって、とても面白い異質な競技だと思います。」

9 時間男子 3 位は多摩 OL を中心とした「TA く MA る」。これまたアドベンチャーで活躍する菅原琢と昨年のオリエンテーリング世界選手権日本代表・円井基史のチームである。2 位との差はわずかに 9 ポイント。紙一重の差だった。



6 時間の部以上は個人出場できない。必ず経験者を含むグループ参加が原則。早朝 5 時のスタート直後。元気に走る参加者ペア

## 富田・三好 男女ペア連覇



草原を走る富田・三好ペア

富田・三好ペアが 9 時間の部男女混合を制した。昨年のロゲイン大会に続き、最長クラスを連覇した。

レース終盤の富田・三好ペアと、筆者は偶然コース上で擦れ違った。

「昨年参加した 6 時間と今年の 9 時間競技は全然別物。最後の 3 時間は地獄を見ました。」

【上位成績】

9 時間の部 男子	
1 チーム大安	2779
2 EAST WIND	2632
3 TA <MA る	2623
9 時間の部 女子	
1 ゆみ&ぼ	1678
9 時間の部 MIX	
1 ぼんぼこりん 2	2368
2 A&F VASQUE	2296
3 チームさわトレ	2136
6 時間の部 男子	
1 Love Beer?	1051
2 マッパ	1034
3 伊東高校地理研	383



伊東高校地理研 とうとうロゲイン進出！

6 時間の部 女子	
1 北海道チーム	1106
6 時間の部 MIX	
1 チーム馬 Q	1078
2 ラタマキュー P	934
3 みやっぶりんごりら	862
3 時間の部 男子	
1 高橋善徳	1592
2 杉山隆司	1588
3 水嶋孝久	1464
3 時間の部 シニア	
1 川口 匡	1468
2 清水 潔	1296
3 河村 健二	1156
3 時間の部 女子	
1 袋井映理	990
2 菊地由花	766
3 高橋美和	682
3 時間の部 ジュニア	
1 町井瑞希	632

**ロゲインの沙汰も金次第？！**

筆者・木村も3時間の部に参加した。しかし前日に開催した「菅平アゲイン2」イベントの準備と運営に注意が向けられていて、ロゲインは準備があまりできていない。スタートで周囲を見ると、水や食料を詰め込んだリュックを背負っている。

そうでなくてもウエストバッグくらいは持っている。

私かというと、「給水所がどこにあるだろうから何とかなるだろう・・・」くらいのつもり。菅平高原の市街地には自動販売機があるから、念のため小銭を持っている。



草原を快調に走る木村。まだまだレースは序盤

さて、スタート10分前に地図が配られ作戦タイム。むむむむ。給水所は会場のみ、高原反対側の山まで行ってしまうと全く何も補給できなくなるぞ。うーむ、これはまずい。あまりにも安易に考えすぎていた。この時点で、私のルートプランは競技の得点よりも、いかに補給を行うかに絞られた。



6時間の部フィニッシュ間近！チームに溢れる達成感！

スタートと同時に参加者が一斉に飛び出す。しかし私は会場横のハッシュハウス（補給所）に飛び込み、まずはたっぷりの水分とバナナを食い散らかす。重いおなかを抱えて、他の人よりかなり遅れてトレインへと歩き出した。

まだまだ先は長いんだぜ。

前半は菅平市街地近くのコントロールで時間を潰す。それでも50分で汗びっしょりになる。

山を降りてくるとそこは菅平唯一のコンビニ。競技時間中にレジに並んだのは初めての経験だ。

スポーツドリンクやカロリー補給食を食べつくして余力充分となり、再び走り始める。

こんな補給方法、走る速さ、ルート選択まで含めてすべてが競技。うーん楽しいぞ、ニヤニヤしながら走っている。

中盤は菅平高原の湿地帯と道路を中心にポイントを稼ぐ。ライバルの姿が遠くにチラチラと見えるのが刺激的。

後半は大松山方面の中腹を中心に攻略。林道をイーブンペースで走り、こちらも予定通り次々とポイントをゲット！

そしてオーラス。あとは会場まで戻るだけ・・・そろそろ補給が切れてきた・・・と思う時間帯にまた市街地方面を抜けるので、自動販売機から水分補給！・・・普通のオリエンテーリングじゃあこんなコト、まず無いよね。

金に糸目をつけない補給作戦に切り替えたおかげで、思いのほか高得点を獲得し、なんと10位に入ってしまった。いやー申し訳ない。

菅平の自然の素晴らしさと、自動販売機の素晴らしさと、コンビニの素晴らしさを感じたレース。「地獄の沙汰も金次第」とは、まさにこのこと。

来年は補給作戦をちゃんと立てて「アドベンチャーレース」らしい内容にしたい。

(木村佳司)



オリエンティア、アドベンチャーレース、MTB-O、スキー-O 選手など異種格闘技の雰囲気